動物実験計画・申請書　　　平成30（2018）年4月改正版

（　□　新規　　　□　継続　承認番号：　　　　　　　　　　）

平成　　　年　　　月　　　日　提出

|  |
| --- |
| 研究責任者  所属・職名・氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印  連絡先（内線）　　　　　　　　　　　　　　　　e-mail  動物実験責任者（分担者は後述）  所属・職名・氏名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印  連絡先（内線）　　　　　　　　　　　　　　　　e-mail  動物実験の経験　　　　　　　　　□　ある　　　　□　ない  動物実験講習会の受講　　　　　　□　はい　　　　□　いいえ  はいの場合　□平成　　　年　　　月　　　日  □　医療法人幕内会動物実験規程を熟知しました  □　本実験に関する法規を熟知しました  □　研究が終了した場合、動物実験実施報告書（様式２）を提出します  □　新規申請：申請内容は、原則的に変更しません  □　新規申請：承認番号（　　　　　　　　　　）と関連した申請内容です  　　　　　□　継続申請：承認番号（　　　　　　　　　　）の申請内容と同一です |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 研究課題 |  | |
| 研究目的 | （本研究の必要性と科学・医学・社会における意義。） | |
| 研究方法の概要 | （動物に対する実験処置を具体的に。） | |
| 実験動物の種類・数  実験を行う施設 | 動物の種類　　　　　　　　　　　数　　　　頭・匹  実験を行う施設　Ｓ－ＴＥＣ　小美玉市高崎1461-1 | |
| 実験実施期間 | 平成　　　年　　　月　　　日　～　平成　　　年　　　月　　　日 | |
| １　動物実験の種類 | □　試験･研究  □　本研究が動物実験の不要な繰り返しにならないように検討しました  □　Pub Med　　□　医学中央雑誌　　□　その他（具体的に）：  □　in vitroの実験系および系統発生的に下位の動物種への置き換え（代替）が可能か検討しましたが、代替法がないものと考えます  □　より侵襲性の低い動物実験方法への代替が可能か検討しましたが、代替手段の感度･精度が不十分であると考えます  □　その他：  □　教育訓練  □　本教育訓練の前に、動物を使用しない訓練（講義、ビデオやＤＶＤ等）を行いました    □　その他（具体的に）： | |
| ２ 麻薬及び向精神薬 | 麻薬あるいは向精神薬を使用しますか　　　□　はい＊　　　　□　いいえ  ＊はいの場合：  □　麻薬（ケタミン等）  麻薬及び向精神薬取締法を理解し、麻薬研究者免許を申請していますか  □　はい 　　□　いいえ  麻薬研究者免許番号：　　　　　　（有効期限：　　　　　　）  □　向精神薬（ソムノペンチル等）  麻薬及び向精神薬取締法を理解し、鍵付薬品庫等で保管し、管理簿を作成していますか  □　はい 　　□　いいえ  ５）その他 | |
| ３ 実験動物に対する  具体的実験処置等  苦痛のカテゴリーの  判定は別紙を参照 | １）□疾患モデル動物（自然発症・遺伝子改変・疾患誘発）を使用します  　　　□疾患モデル動物（自然発症）　疾患の名称：  □疾患モデル動物（遺伝子改変）疾患の名称：  □疾患誘発モデル　　　　　　　疾患の名称：  　□疾患モデル動物を使用しません | 苦痛のカテゴリー |
| （　　） |
| ２）実験動物を保定・固定、体重測定あるいは耳パンチしますか  □　保定する　□　固定する　□　体重測定　□耳パンチ  □　しない | （　　） |
| ３）投与・注入をしますか　　　　　□　する　　□　しない  投与・注入手技の習得　　　　□　した　　□　していない  投与・注入方法：□　経口 　□　皮下･皮内　 □　筋肉内  □　腹腔　 □　血管内　□その他（　　　　　　　　　　　　　）  1回の投与・注入量：　　　　ml  投与・注入頻度：□　実験を通して1回のみ  □　複数回実施　　　回/  □日　　□週　　　□月  □　その他  投与・注入による動物の苦痛　　　　　　□　ある　　□　ない  苦痛軽減方法： | （　　） |
| ４）負荷試験を行いますか　　　　 　□　する　　□　しない  　　　　負荷内容： | （　　） |
| ５）給餌制限・給水制限  ①給餌制限　　　　　　　　　　　　　□　する＊　　□　しない  ＊する場合の科学的根拠：  最低必要量の飼料が摂取できるように計画　□している　□していない＃  ＃していない場合の理由：  ②給水制限　　　　　　　　　　　　　□　する＊　　□　しない  ＊する場合の科学的根拠：  最低必要量の飲水が摂取できるように計画　□している　□していない＃  ＃していない場合の理由：  脱水症状をモニターしますか　　　　 □　する＃　　□　しない＃＃  ＃　する場合　□　生理的/行動指標　□　体重測定　□　その他：  ＃＃しないの場合の理由： | （　　） |
| ６）麻酔下で材料の採取はしますか（安楽死後を除く）  □　する　　□　しない | （　　） |
| ７）一部採血をしますか　　　□　する　　□　しない  採血方法：□　尾静脈 　□　耳静脈　 □　心臓 　 □　その他（　　　）  1回の採血量：　　　　ml  採血頻度：　　回/　□日　　□週　　　□月  採血による動物の苦痛　　　　　□　ある　　□　ない  苦痛軽減方法： | （　　） |
| ８）移植、手術（外科的処置）その他の医療的行為 □　する＊　　□　しない | （　　） |
| ４　実験動物の  苦痛軽減法 | 苦痛軽減方法についての説明および理由  □　軽微な苦痛の範囲なので特に措置を講じなくてよい  □　短期間の保定・拘束なので特に問題はない  □　麻酔薬・鎮痛薬等を使用する　　薬剤名：  □　その他の苦痛軽減措置を施します  方法（具体的に）：  □　人道的エンドポイント（Humane endpoint：実験動物を激しい苦痛から開放するために実験を打ち切るタイミング）を適用します  エンドポイントの判別方法：  □　科学上の目的を損なわない苦痛軽減方法は存在しない  理由：  □　長期間の保定・拘束が避けられない  理由：  対処方法： | |
| ５　カテゴリーの  分類 | 実験動物の苦痛の程度はＳＣＡＷが作成したカテゴリーのいずれに入ると思いますか  **□　Ａ**  **□　Ｂ**  **□　Ｃ**  **□　Ｄ**  **□　Ｅ**  A：生物個体を用いない実験あるいは植物、細菌、原虫、又は無脊椎動物を用いた実験  B：脊椎動物を用いた研究で、動物に対してほとんど、あるいはまったく不快感を与えないと思われる実験操作  C：脊椎動物を用いた実験で、動物に対して軽微なストレスあるいは痛み（短時間持続する痛み）を伴う実験  D：脊椎動物を用いた実験で、避けることのできない重度のストレスや痛みを伴う実験  E：麻酔していない意識のある動物を用いて、動物が耐えることのできる最大の痛み、あるいはそれ以上の痛みを与えるような処置 | |
| 備　考 | | |

|  |
| --- |
| 動物実験委員会の審議日　　　平成　　　年　　　月　　　日  □　許可　　□　不許可  コメント  動物実験委員長　　　　　　　　　　　　　　　　　　印 |
| 平成　　　年　　　月　　　日  医療法人幕内会　理事長　　　　　幕内　幹男　　　印  □　承認　　承認番号：  □　不承認 |